

# 令和2年度 長寿の里・南濃 事業報告

## 【令和2年度重点目標】

- ・ 事業運営を安定的に継続させる取組み
- ・ 地域との共生を目的に、地域貢献への積極的取組み
- ・ 職員の確保と人材育成に対する取組み
- ・ 各部署との連携・協力をもとに総合的な効率化と全体のレベルアップを目指す

## 【各部門事業実績】

### 〈特別養護老人ホーム〉

#### 1. 地域との連携体制の強化

コロナウイルス感染予防のため、交流を制限した。コロナウイルス感染症が収束したら、地元の催し物に積極的に参加し、また事業所の活動をより良く知ってもらうために、施設行事に参加していく。また、ボランティアや地域小中学校の職場体験を受け入れる事で、施設のことを地元の方へ知ってもらえるようにしていく。

#### 2. 重度化への体制作り

入居者の重度化に伴い入居期間が短くなってきている。また医療的処置も必要となり入院へ直結する場合もある。協力医療機関との連携を図り、看取り介護を周知した事で入院期間は短縮することができた。医療面に対する介護職へのバックアップ体制もでき、介護と看護の連携を密にすることができた。

#### 3. 安定的経営基盤の確保

令和2年度の平均入居稼働率は 96.7%であった。時期的に入院者が重なった事や、新規入居待機者を把握できず入居が後手になってしまった。課題として入居待機者をいかに確保し、スムーズな対応ができる体制作りが必要である。重度要介護高齢者を受け入れたが入居期間が短くなり、平均要介護度は 3.74 であった。

### 〈ショートステイ〉

#### 1. 利用者への接遇マナー向上

利用中や送迎時等、利用者や家族に対して丁寧な言葉遣いを年間目標として、毎月振り返りができる場を設け意識して行えた。

#### 2. 家族や事業所との連携強化

利用中の様子を、家族や担当ケアマネジャーに情報伝達が密にできた。利用者や家族のニーズに合わせたケアが行えるよう、現場職員と相談員が連携し個別ケアにあたる事で、計画目標達成に繋がった。

#### 3. 安定的経営基盤の確保

令和2年度の平均稼働率 97.7% (特養含む) であった。特養入居者が入院した際の

空床をショートで利用することができた。また新規利用者を確実に利用に繋げ、定期的若しくは継続利用に繋がった。

### 〈デイサービス〉

#### 1. 個別機能訓練の充実

自立した在宅生活を送れるよう、個別性のある訓練が行えるよう機能訓練室を別室とした。訓練場所を別にする事でメリハリが持て、充実した訓練や時間を過ごす事ができた。今後、個別の生活歴に合わせた訓練を計画していく。

#### 2. 利用者中心のサービスの実践

利用者や家族のニーズに合わせたケアが行えるよう、多職種協働で策定した個別サービス計画を実施する事で、利用者が自立した生活に近づく事ができた。個別サービス計画内容の評価やモニタリングが不十分な場面があったので、連続性を持って対応できる体制作りが必要。

#### 3. 安定的経営基盤の確保

令和2年度の平均稼働率は 68.1%であった。コロナウイルス感染症予防に伴う利用控えが影響した。居宅介護支援事業所への継続的な営業ができていなかった。ご利用者はもちろんケアマネジャーから選ばれる事業所作りが必要である。

### 〈居宅介護支援〉

個人の残存能力や、家族の介護力を見極めてアセスメントを行う事で、その都度必要なサービスが提供でき、安心した在宅生活が継続できるように支援できた。毎週居宅会議を開催することで、各ケアマネが抱えている困難事例をいち早く解決できた。

地域ケア会議へ参加する事で、地域での役割が明確になり、また他事業所との連携もとれ共通認識できた。

### 〈訪問介護〉

利用者個人を尊重したサービスを行う事で信頼関係を構築する事ができた。

サービスを提供するにあたり、多職種間で連携をとる事で専門性の高いサービスが提供できた。今後他のサービスに繋がるよう連携していく必要がある。